

## 特別寄稿

## 「親子で歯っぴ〜プロジェクト」に参加して

沖縄県歯科衛生士会  
小山 みどり

## ○はじめに

沖縄県の3歳児う蝕有病者率は全国の約2倍と高く、年々改善してきてはいるものの、いまだに全国ワースト1〜2位の状態が長く続いています。乳歯がむし歯になると、よく噛めずに偏食が多くなり、噛めない事でアゴの成長に影響がでたり、歯並びにも影響が生じます。また、前歯がなくなるとうまく発音することができずに喋りにくくなるなど、「乳歯は、はえかわるから」とむし歯を放っておくと永久歯の発育にもよくありません。沖縄県は、このような有病状況を早急に改善する事を目的に平成28年度から令和2年度までの期間、沖縄県小児保健協会が県から委託を受け「親子で歯っぴ〜プロジェクト」を実施しています。

過去の県内の乳幼児健康診査のデータを解析したところむし歯の改善には「毎日の仕上げみがき実施」が最優先事項であることが明らかとなり、エビデンスに基づいたむし歯予防効果の高い対策である「フッ化物応用」と合わせることで3歳児むし歯有病者率の改善を目指そうと8つのモデル市町村で事業を推進することになりました。乳健後期と1歳6か月児の受診親子にアンケートと歯っぴ〜ケアグッズ（仕上げみがき用歯ブラシ、フッ化物スプレーなど）を一定期間配布し、歯科保健指導の場でスプレーの使い方や仕上げみがきを実際に保護者に行ってもらい、出来ない保護者には出来るように指導する事で、家庭での仕上げみがき実施率アップに繋げ3歳児有病者率の改善を目指しています。検討評価委員は、小児科医、歯科医師、保健師、歯科衛生士の多職種で構成されています。

## ○乳幼児健康診査における歯科保健指導

現在各市町村で行っている乳幼児健康査診（乳健後期、1歳6か月児、2歳児、3歳児等）では歯科衛生士による歯科保健指導のコーナーが設けられており（市町村によっては、はみがき指導、歯科相談、フッ素塗布などの名称の所もある）問診票と歯科健診結果の確認を行い、今後考えられるむし歯リスクに対する予防と対策、仕上げみがきの確認、母乳、卒乳、哺乳瓶をやめる時期、染め出し、フッ素塗布、歯磨剤についてなど保護者からの相談や質問は様々です。集団健診の限られた時間の中で必要事項をわかりやすく伝え、指導（支援）を行うには専門的知識と経験が必要不可欠です。そのためには、指導内容に違いがでないように歯科衛生士は日頃から意見交換を行っています。

## ○歯科保健指導の標準化に向けて

親子で歯っぴ〜プロジェクトの実施内容の1つに保護者説明用媒体の作成があり、年齢に応じたポイントを短い時間で効率的及び効果的に説明出来るように、年齢ごとに編集しています。歯科衛生士が共通の媒体を持つ事でどの市町村でも標準化された歯科保健指導を受けられるメリットになると思います。媒体作成するにあたり、多職種の方々の意見も取り入れ何度も検討会議を重ねた中で、ネットや書籍など様々な情報が飛び交う今だからこそ指導内容を標準化することの必要性を強く感じました。ついに媒体が完成した所で、実際の健診の場で使い勝手を検証するという事で、4人の歯科衛生士が各市町村でお試し期間を始めました、必要事項をもれなく説明し歯っぴ〜ケアグッズの説明（配布前なので各自で

準備)、アンケートの確認など、通常の健診より時間がかかるので、1人の受診者に係った時間を記録しながら行い、受診者が多い会場では数名ずつ指導したりして、健診の流れに影響が出ないように色々工夫しました。

### ○モデル市町村へのケアグッズ提供

媒体の試用期間を経て、いよいよケアグッズの提供開始時期になりました。開始にあたって、健診従事者、市町村健診関係者対象の研修会開催や歯科衛生士限定の研修会開催を行いました。歯科衛生士限定の研修会では、夜の研修会にも関わらず全島から多くの方が参加し普段交流がない他市町村の歯科衛生士とも情報交換が出来てとても有意義な時間だったと思います。研修会は、モデル市町村で実際に媒体を使用しグッズ説明している様子(乳健後期、1歳6か月児)を小児保健協会の担当者がビデオ撮影しそれをみてもらいグループワークを行いました。歯科保健指導の時間配分や話の流れ、保護者への声掛け、普段自分以外の保健指導を聞く事があまりないので自分と違う点や活かせる点を考える貴重な機会になったという感想が多く寄せられました。

モデル市町村のグッズ提供はまず乳健後期から始

まりました。歯科保健指導は後期で初めて入るのでとても大切な健診です。保護者の中にはフッ化物スプレーを初めて知ったという方も多く使い方や効果を熱心に聞き、早速使ってみますの声も。そしてその子供達が1歳6か月児健診を迎え、家庭で毎日の仕上げみがきが出来ているか?フッ化物スプレーを使用しているか?2回目のケアグッズ提供を行い寝かせ磨きの確認をします。

健診現場は、特に1歳6か月児健診では一人が泣き出すと連鎖反応でどんどん泣く子が増え会場は泣き声で大騒ぎ・・・私たち歯科衛生士はマスクの下から声を張り上げながら、話をし、フッ素塗布をし、笑顔で頑張っています。一部のモデル市町村は2歳児歯科健診にてケアグッズを提供中です(平成31年1月時点)がその他は提供が全て終了しました。その後3歳児健診を経てデータ集計・分析による効果を検証します。

### ○最後に

沖縄県の3歳児う蝕罹患率ワースト1からの脱却・乳幼児のむし歯状況の改善と健やかな成長を願い、今後も歯科衛生士の立場からあらゆる場で継続支援をしていきたいと思ひます。

